

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↑ 1	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↑ 34	25	ヘルパンギーナ	↓ 25	43
咽頭結膜熱	↑ 8	5	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 60	78
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 44	27	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 171	193	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 10	8
水痘	→ 28	28	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 94	91	無菌性髄膜炎	↓ 0	2
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 5	8	マイコプラズマ肺炎	↑ 4	3
突発性発しん	↓ 44	48	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

- 感染性胃腸炎は、報告数 171 件(前週報告数 193 件)と減少。地区別では、人吉、有明、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 31 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 手足口病は、報告数 94 件(前週報告数 91 件)とわずかに増加。地区別では、水俣、宇城、天草に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 40 件を最多に、主に 10～14 歳以下からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 60 件(前週報告数 78 件)と減少。地区別では、有明、水俣、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、2歳の 10 件を最多に、10～14 歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	14	3	20	47	14	16	2	18	0	2	27		7				4
山鹿保健所	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	*	*				
菊池保健所	0	13	3	4	9	1	8	0	5	0	3	4		2				
阿蘇保健所	0	0	0	0	3	0	2	1	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	2	0	2	15	2	13	0	1	0	0	3						
水俣保健所	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	2	4	*	*				
人吉保健所	0	0	0	2	35	2	8	0	1	0	0	4	*	*				
有明保健所	0	1	1	0	40	7	5	0	4	0	0	16		1				
宇城保健所	0	4	0	2	15	1	12	0	7	0	1	0						
天草保健所	0	0	1	14	0	1	16	2	8	0	17	2						
計	1	34	8	44	171	28	94	5	44	0	25	60	0	10	0	0	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1																					
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	34	7	10	12	3	1	1															
咽頭結膜熱	8			4			2					1		1								
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	44			1	1	5	6	6	4	8	5	1	4		3							
感染性胃腸炎	171	4	25	31	20	13	17	17	4	8	5	4	11	3	9							
水痘	28		4	9	4	3	2	3		2					1							
手足口病	94		5	40	16	18	8	2	2			1	1		1							
伝染性紅斑	5					2		3														
突発性発しん	44	2	21	18	3																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	25			2	11	4	2	2	1	2		1										
流行性耳下腺炎	60			8	10	9	7	9	4	7		3	3									
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	10							2		1				1		2	3			1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	4			2		2																
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生 又は継続しつつある地域

● 手足口病：菊池・八代・水俣
人吉・宇城・天草

● ヘルパンギーナ：天草

RSウイルス 感染症



先週末までの報告数はしばらく横ばいでしたが、今週は増加に転じています。乳幼児を中心に報告されており、全体の 85% が 2 歳未満の乳幼児でした。全国の報告数も前々週にいったん減少しましたが、前週には再び増加しています。RSウイルス感染症は、例年冬に多く発生しますので、今後の動向に注意が必要です。症状は一般的に、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1～2 週間で軽快します。RSウイルスには、2 歳頃までに、ほぼ全ての人がかかりますが、初めてかかった場合では、約 30% に細気管支炎や肺炎などを起こします。特に生後 6 ヶ月以内の乳児や、早期産で出生した乳児、循環器疾患のある乳幼児では重症化しやすいので注意が必要です。乳幼児のいる家庭などでは、家族全員で注意をしましょう。RSウイルスは咳やくしゃみの飛沫(ひまつ)から感染します。流行期には赤ちゃんを入浴に連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いなどが予防に有効です。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課